

第7回 授業づくりを学び合う会「4月・5月の学習集団づくり」報告

- ◇ 日時 2020年3月28日(土) 午前9時30分～12時 *コロナ感染防止のため半日に短縮
- ◇ 場所 桜花学園大学
- ◇ 主催 授業研究会・愛知サークル
- ◇ 参加 16名

新年度を前に、「4月からよい学級をつくりたい」「楽しくて質の高い授業を目指したい」と願う教師と、今春大学を卒業し、新たに教職に就く学生8名が集まりました。一から学ぼうとする新鮮な思いが会場に溢れ、現場へ出る学生たちの背中を押す会になると同時に、経験を積んだ教師にとっても、初心に帰り、学び続けることの重要性を再認識するとてもよい機会になりました。

① 追求・表現できる学習集団づくり(石井)

- 主体的・対話的で深い学びのための追求とは? 表現とは?

「スイミー」の音読の二つの映像の比較や、プラトンの洞窟の比喩などの例から、「主体的・対話的で深い学び」とは、自分で考え、他者と話し合い、明視する(はっきりと見える)ることであると規定されました。そして、その2つの柱である「追求」(質の高さを鋭く求め続ける)と「表現」(内面・心をのびのびと形にして伝える)について、国語や合唱の映像、「あ」の様々なイメージによる音読(楽しく・悲しく・驚いて・とぼけて など)を通して語られました。

- 深い学びを実現する4月・5月に向けて黄金の3日間をつくる

4月当初の学級について、問題点や心配なことなどを参加者から出してもらったところ、

- ・ 問題行動をどう注意したらいいか?
- ・ “叱る”と“怒る”の違いは?
- ・ 声をどう出させたらいいか?

などの意見が出され、以下、それを踏まえた上で、次のことが語られました。

- 学校現場には、現実ウィルス(古い因習、膨大な雑務、価値観の怪しい同僚 など)が充満しており、教師自身が主体的・対話的で深い学びをする必要がある。それにはサークル活動が最適。
- 教師の価値観(教育とは? 教師とは? 授業とは? 子どもとは? 学級とは?)と人間性(未熟さの自覚、相手主義、感性の錬磨 など)を磨くことが重要。
- 安心できる雰囲気(教室は間違える所の徹底、僅かな反応や変化の評価、発言を活かす など)と学習の構え(集中、聴く、話す、考えをもつ)をつくることが重要。

* この後、学級びらきや授業びらきの場面を想定したシミュレーション(模擬授業)や、戸田実践からの学びを行う予定でしたが、時間短縮のため割愛されました。

《参加者の感想》

- 「どこまで追い求めるのか」という部分で悩んでもがくのだなと思いました。そのために、サークルや職場の人と対話をしていきたいです。
- 子どもはみんな力を持っていて、それを引き出せるかどうかが教師の力だと学びました。まだ勉強しかしておらず、不安なところばかりですが、少しずつでも先生のおっしゃっていたことを使っていけるように頑張りたいと思いました。
- 叱ると怒るを自分が使い分けて、それでも人間なので、怒るが出てしまった時、どうしたらよいか、すごく悩みました。

② 国語の授業で学習集団づくり(森川)

- 主体的・対話的で深い学びのための追求の授業とは?

「今、子どもたちがどんな先生を望んでいるか」という問題提起から始まりました。結論は、子どもへの愛情とか親しみやすさよりも「授業の分かりやすさ」であり、授業の上手な先生が減っているという現実が指摘されました。そして、「教育は、どの子どもも豊かな可能性をもっていることを信ずるところから出発する」という斎藤喜博の言葉を例に、「やんちゃな子」「問題を抱える子」「学習が振るわない子」など、様々な子どもがいる中で、教師は、どの子どもも「今よりよくなりたい」「もっとできるようになりたい」と思っていることを信じるとともに、その子どもの願いや期待に応える授業をし、「この先生と勉強すればよくなり、できるようになり、変わる」という実感を持たせることが重要であると語られました。

- 4月・5月に実践できる文学教材で追求の授業体験

1年教材『だれにあえるかな』(工藤直子)を扱い、「この教材を使って授業するとしたら、どうするか」と、初見の物語を参加者に提示して、一緒に展開を考えました。全文ひらがなの平易な文章でありながら、いざ読み進めていくと、大人である参加者が問題解決に立ち往生しましたが、それを、国語辞典を使って解決するという体験を通して、言葉の面白さや授業をつくる楽しさの一端を感じることができた時間となりました。

「授業をつくる」ということは、教材研究 → 授業構想 → 授業実践 → 授業反省のサイクルの繰り返しで、その地道な「授業をつくる」(授業研究)力をつけるために、新しい教師への3つの願いが示されました。

- その1 すぐれた教師を模倣する
- その2 教材に感激する
- その3 仲間と学ぶ

《参加者の感想》

- 森川先生が初めに名前を書かせ、その後に見本を見ながら書くことを通して、子どもに「頭を使うこと」「本物を見て考えること」「本気になればできること」を教えていて、すごいと思いました。
- いったいどうやって、こんな分かりやすい文章を教材として用いて何を教えるのかと思ったけど、見逃しがちな言葉をもう一度よく考えることが教材を深く考えていくきっかけとなり問題提起につながるのだと分かりました。
- ただ文を整理するような授業ではなく、今日体験した「本当に会ったのか?」というテーマを聞いて、「え?」と子どもにも考えさせられるようにしたいです。そのためにも、教材と向き合い、曖昧な読みや考えを明視できるよう意識して教材研究に励みたいです。